

テレビ小山放送 2022年放送番組審議会 議事録

本年の放送番組審議会は、新型コロナウイルス感染拡大が続いた事から書類による審議となりました。9月下旬に各委員に対し審議資料を送付し、全ての委員から回答を頂きました。

審議委員 神山 宜久委員 渡辺 順一委員 島村 志津夫委員 諏訪 ちひろ委員
 安藤 良子委員 尾林 正人委員 篠原 正委員 鈴木 孝委員

議事① 放送したレギュラー番組・特別番組についての感想・意見・質問

● 「おやまニュース50」について

- ・放送枠が5分から7分に拡大し、地域の情報をより多く、リアルに提供出来ている。
- ・新型コロナ感染状況の報道では、感染者数を伝えるだけでなく注意喚起のメッセージを伝えるためには表やグラフを提示して推移を説明する工夫が必要。

回答：ニュースでの感染状況の報道は栃木県からの発表を中心に毎日実施しています。

しかし、今年9月末に発生届の簡素化と全数把握の見直しにより市町別の感染者数の公表が終了してしまい、地域住民への伝え方が難しくなりました。

今後、感染状況が悪化した場合には市町からの情報収集に力を入れ、必要とされる情報の発信に注力していきます。

- ・アナウンサーの表情がかたい。暑い時期はノーネクタイでも良いのでは。

回答：他のニュース番組を参考にしながら、司会の振る舞いを改善して参ります。

● 「ふれあいネット」などレギュラー番組について

- ・「ふれあいネット」

野木町の話が増えたことにより、街づくりに貢献しているのではないかと。

今後も幅広く取材して欲しい。

- ・「ワイドスペシャル」

複数のカメラワークで臨場感が伝わる映像となっている。

- ・音声聞き取りづらく改善して欲しい。
- ・クラシックコンサートを多く取り上げてほしい。

回答：事前準備の時間を設け、収録時の音質向上に努めます。

また、コロナ禍で休止していたコンサート開催が徐々に再開される状況となっており収録可能なコンサートについて放送を行っていきます。

● 特別番組について

- ・小中学校の学校行事や過去のアーカイブ放送、小山の花火生中継は継続して欲しい。
- ・コロナ禍で入場制限のある学校行事の放送は有意義である。
- ・スポーツ大会の生中継は、視聴者が楽しめる番組となっている。
- ・とちぎ国体ウエイトリフティング中継は良かった。競技間のテロップを工夫して欲しい。

他の競技も生中継で観たかった。

- ・とちぎ国体の報道は、新型コロナ感染対策として観覧者の入場制限が行われる中で非常に有意義だった。

回答：生中継中の競技間は開始時間のテロップ表示など、視聴しやすい工夫を行います。
また、今回の生中継実施を糧とし更なるスポーツ中継の実施に繋げていきます。

議事② コミュニティチャンネルに対する意見・要望・質問

- ・栃木県CATV協議会や関東地区のCATV局との共同制作について

さらに連携を取る事で制作対象が広がり、番組増が期待できるのではないかと。

回答：栃木県CATV連絡協議会では各局の自主制作番組担当者による映像部会を設けスポーツ中継の共同制作や番組交換などを実施しています。今後、地元開催の大きな催しを番組化した際に他局での放送を提案する等、更なる連携を検討致します。

- ・コウノトリのライブカメラ中継は、渡良瀬遊水地に足を運ばなくてもヒナの成長が楽しめる映像だった。

定点カメラを増やし、小山市から望む富士山など様々な風景を映し出してほしい。

回答：水害対策として思川の映像を撮影している市役所屋上のライブカメラですが冬場には危険性も減少することから、富士山などの風景を取り上げることを検討します。
また、今後ライブカメラの増設も検討致します。

- ・全般的に映像が綺麗になっている。
- ・コミュニティFMおーラジとコラボし、加盟店紹介のコーナー制作やイベント中継が実現できないか。
- ・飲食店などのタウン情報については、いつでも視聴できるオンデマンド化を検討して欲しい。
- ・全国のCATVではYoutubeチャンネルを開設している局もある。番組の一部公開が加入者獲得につながるのでは？

回答：飲食店紹介については「おーラジ」とのコラボを検討致します。

また、地域全体に対する弊社のイメージ戦略としてYoutubeの活用も検討致します。

- ・幼児施設や小中学校での子供たちの様子を紹介する新番組を期待したい。

回答：部活動やサークル活動など地域の子供たちの活躍を伝える新番組を検討致します。

- ・L字テロップ放送は、緊急時などの信頼性が高い。習慣的にチャンネルを合わせる契機となる。
- ・地域特派員を設け、放送局員だけではカバーしきれない地域情報を投稿してもらうのはどうか。

回答：弊社では2018年に市民カメラマン制度を設け、現在は野木町在住の2名が活動しています。市民カメラマン制度は、研修を受けた市民から地域で知り得る情報を提供してもらうほか、有償で撮影取材を依頼できるものです。現在、新型コロナの影響で活動は停滞しておりますが、市民から気軽に情報を寄せて頂けるよう今後の制度活用を検討致します。

- ・放送事業者として時代に遅れないよう、設備や事業の充実を期待している。
- ・地域にこだわったケーブルテレビだからできる番組作りを行い、市民に視聴される放送を期待している。

議事③ テレビ小山放送の事業計画に対する意見・要望・質問

・小山市・野木町全域の整備が完了したが、加入世帯が減少している要因は何か。

回答：当初計画では、OYAMA 光第2工区の開局を予定しておりましたが、世界的な半導体チップの不足により発注していた光通信系端末機の納品が1/10に減少し、サービスを提供できないことから開局時期を延期せざるを得ない状況に至りました。

26 期中は、同軸エリアでの営業活動に限られたものではありませんでしたが、アップセル活動を軸にインターネット及び固定電話のバンドル化を強化することができました。

一方、コロナ禍による収入減少、物価上昇などの影響で経費削減の抑止力が高まり、テレビ解約が多く見受けられました。

また、団塊の世代から若年層に世帯主が入れ変わり、近年急激な成長を遂げているインターネット動画配信サービス（VOD）に移行する傾向も強まり、若年層のテレビ離れが目立つようになりました。

以上